

## 令和5（2023）年度 第3回子ども・子育て会議 議事録

- 日 時 令和6（2024）年3月26日（火） 14：00～16：00
- 会 場 健康管理センター3階 集団指導室
- 出席委員 植木会長、川本副会長、近藤委員、佐藤委員、野中委員、高橋委員、  
松谷委員、小林委員、西巻委員、田辺委員 10人
- 欠席委員 村井委員、石川委員 2人
- 事務局 小池子ども未来部長  
（子育て支援課）田中課長、小池課長代理、石橋課長代理、曾田係長、重野係長、  
村田主任、丸山主任  
（保育課）中村課長、笹川課長代理、小山係長  
（子どもの発達支援課）小山課長代理  
（福祉課）丸山主任、飛田主事 14人

1 開会 司会：村田主任

2 挨拶 植木会長

正月には、能登半島で地震があり、私も2度ほど七尾市に子ども支援として行ってきた。遊び支援、時々  
工作をしたりした。放課後児童クラブの子どもたちのところに行ってきたが、子どもたちはやはり仲間がい  
るということ、それから通える大人がいること、その2つの要素が様々な震災によるストレスの軽減につ  
ながっていることを実感した。それと同時に、現地の子どもたちを支える、現地の被災者でもあるおとなた  
ちを支える支援者、支援の仕組みも考えていかないといけないと実感した。今日は令和5年度の評価である。  
忌憚のない御意見をいただきたい。

3 議題 司会進行：植木会長

(1) 第二期子ども・子育て支援事業計画(令和5(2023)年度評価)について

- ・冒頭、総括表の見方、事業評価基準表について石橋課長代理より説明
- ・総括表（令和5（2023）年度 取組評価・実績）に基づき各担当者より説明
- ・総括表1～4 ①、② 教育・保育給付、地域子ども・子育て支援事業について  
笹川課長代理：①施設型給付  
笹川課長代理：②地域型保育給付  
(1)一時預かり事業  
(2)延長保育事業 について説明

<質問・意見等なし>

- ・総括表5～8 地域子ども・子育て支援事業について  
笹川課長代理：(3)病児保育事業  
小池課長代理：(4)利用者支援事業（母子保健型）  
(5)妊婦健康診査

(6)妊産婦・新生児訪問及びこんにちは赤ちゃん事業 について説明

**西巻委員** 子育て世代包括支援センター利用者支援事業の次年度の取組のサポートプランについて、課題が複雑化し1つの業種だけでは対応できない事例が増えているという印象があり、こういう多業種、多くの専門家の方たちからサポートをすることが大事だと思う。この他業種とはどの程度の方たちまでをいうのか。

**小池課長代理** 執務室には通常、専門職として、保健師、助産師、家庭児童相談員（教員免許がある職員）、精神保健福祉士を配置している。また、令和2年度以降は女性福祉相談員を配置し、児童虐待の背景にDVがある事例については、日常的に支援体制が組める状況にある。他の家族がいる場合は福祉課、介護高齢課では町内会に声を掛けるなどその時により必要な関係者と協議していく。

**小池部長** 新年度において重層的支援事業体制が開始される。重い案件については会議に挙げていく。年間数件程度と予測されるが、全庁だけでなく幅広く対応していく。

**西巻委員** その時々において柔軟にサポートされる方も変わっていくことが分かった。そういうことがすごく大事だと思う。引き続き、取り組んでほしい。

**植木会長** 常設的な連携チームがあって、必要に応じて他課、あるいは病院等、多職種との連携も含める体制を進めていきます。つまり、ケースバイケースで個別に対応していきますと、大変重要だと思う。ぜひ一般市民にも、こうしたことをやること、遠慮なく相談してくださいという風に何かアピールできるような、そういう場もあってもいいのかなという風に思う。

・総括表9～13 地域子ども・子育て支援事業について

曾田係長 : (7)乳幼児健康診査

重野係長 : (8)児童虐待防止事業

(9)家庭児童相談事業

小池課長代理 : (10)養育支援訪問事業

重野係長 : (11)養育支援事業（育児支援ヘルパー） について説明

<質問・意見等なし>

・総括表14～18 地域子ども・子育て支援事業について

小池課長代理 : (12)子育て短期支援事業

(13)ファミリー・サポート・センター事業（子育て援助活動支援事業）

小山係長 : (14)地域子育て支援拠点事業

石橋課長代理 : (15)放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）

(16)子どもの遊び場整備事業 について説明

<質問・意見等なし>

**植木会長** 子育て短期支援事業に関しては、令和5年度の評価が「B評価」ということだが説明を聞く限りでは、実施施設が見つかれば、すぐに開始できるということか。それであれば、

実施できないということではなく、前向きに検討を進めている判断できることから、B評価となっている。

・総括表19～22 地域子ども・子育て支援事業について

石橋課長代理：(17)子育て応援券事業

(18)医療費助成事業

笹川課長代理：(19)実費徴収に係る補足給付を行う事業

(20)多様な主体が本制度に参入することを促進するための事業 について説明

<質問・意見等なし>

**植木会長** 21番、22番は、事業そのものが未実施であるということで評価ができないことから「F評価」ということである。

**植木会長** 全体を通して意見・質問はどうか。

**川本副会長** 11番の家庭児童相談事業について、不登校の問題、相談件数が増えていることもあり、11月末で2,684人の延べ人数が、これからどんどん相談内容が増えていく傾向にあるのだと思う。今、学校との連携や相談を受けた後の方向性などが本当に難しい状況にあると思う。不登校の子どもたちはどんな状況にあるのか、私たちを取り巻く環境の中で、知り合いの方もたくさんいる。本当に保護者の方が困っている状況を伺う機会があるため、相談する場所がここにあるということもすごく貴重かと思うが、そこからどのような展開があるのか聞かせてほしい。

**小池部長** 不登校の数は毎年増えている状況は認識している。そうした中、市の体制として、教育委員会の学校教育課に、新年度から市の臨床心理士を配置する。各入口には、指導主事の先生方がいるが、学校教育課の指導主事の先生方と一緒に、まずその子どもたちの状況把握、初期の部分をどのように対応していくか判定が必要であり、体制強化をまずはしたいというのが1点。それからもう1点が、4月から民間の方でフリースクールという話も出ている。私ども、それから教育委員会と既に情報共有しているが、そうした中で、その民間の動きがどういった不登校を抱えているお子さんたちに良いのか。もちろん、市の子どもの発達支援課が実施しているふれあい教室を含めてだが、民間とのつながり、組織体制の評価も来年の1つの課題になっている。いずれにしても、4月からフリースクールもスタートするとのことで、少し状況等も教育委員会の方とも連携しながら把握に努めていきたいと思う。

家庭児童相談員の件だが、今の状況を踏まえた対応をしているので、ここだけで完結するのではなく、結果、家にいる方をこうした事業で支援していると捉えていただければと思う。

**近藤委員** キッズマジックは子どもと保育園のみんなと特に冬場に利用した。(市から)利用券が出されているが、それが無くなると有料となる。県外の子どもたちは料金を払って利用する。運営費等も掛かるだろうが、冬の間は市内の子どもたちは無料にするとか、もしくは回数券、利用券をもう少し出すなど、あくまで要望だが、保育園でも利用券が無いから行かないみたいな話も出ているので、今後、改善できるのであれば検討いただきたいと思う。

**田中課長** キッズマジックは この春から全面的に改修工事に入る。運営経費を市が負担し無料で遊べる施設とする。利用券は令和5年度までの補助で終了となり、4月以降は無料でチケット無しで遊べるようになる。今、服屋のある部分を拡張し、そこには柏崎産の杉材を使うといったエリアに整備する。夏前ぐらいから、照明やエアコンの工事を一部入らせていただく予定で、夏以降には全面的な入れ替え工事となり、年度内の完成を目指す。また、（工事期間中も）今ある遊具を使って遊べるように、規模は小さくなると思うが、そんな場も用意したいと考えている。

**植木会長** これは報道されていた。2024年度中にオープンを目指すと書いてあったが市営化するのか。

**田中課長** 今まで柏崎ショッピングモールという民間事業者が遊具を入れたり人を雇ったりしていたが、4月からは運営や遊具を入れるお金も市が出し、市が運営することになる。

**植木会長** 無料になるということで、利便性が格段に拡大すると思うし、広さも倍になるということで期待したい。

## (2) 1・2歳児の保育料無料化についてのアンケート結果について

- ・資料3について、笹川課長代理より説明

**植木会長** 市民から歓迎の声が聞かれているようだ。無料化の影響で入園希望者が殺到しているのか分からないが、いずれにしても、概ね良い評価をいただいている。

## (3) 第三期柏崎市子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査について

- ・資料4-1、4-2、5-1、5-2について、石橋課長代理より説明

**植木会長** そもそも国がこども大綱において、ある程度の根拠を持った指標が正式に示されている。その指標と柏崎市の（市の調査）内容が比較できるよう工夫されているとのことである。

**高橋委員** 小中学生を対象にということで、問15の「15年後に」というような質問だと足し算をしなければいけない状況になる。分かりにくさを感じるので、大人になったとか、その程度でいかが。

それから、問19の3に「いじめを受けた」という表現があるが、無視された、傷つくことを言われたという項目もあり、被るところもあると思う。これも子どもたちは非常に、いじめというような言葉であると、我々もこれを見るとこれはドキっとするため、この表現をもう少し考えていただければと思う。

**石橋課長代理** ご意見、参考にさせていただきたく。

- ・議事終了

・任期満了に伴い各委員より挨拶

**近藤委員** 会議に参加し、改めてというか初めてというか、柏崎市ではこれだけのことをされているんだと委員になって気がついたところが多々あった。逆に言うと、こういうことに携わっていない市民の方は知らないとか、ガイドブックとかポップとかで告知していても、なかなか知識としては入ってこないことが多々あった。今後もう少し市民の方に分かりやすく周知できたら、こんなこともやっている、こんなこともしてくれるんだという風に思って、暮らしやすく、子どもを育てやすくなっていくかと思う。引き続きやってほしい。

子ども、保護者代表として、子どもの遊び場がいっぱいあると、市外からもたくさん遊びに来たりして、それがその先の移住につながってくると思う。ぜひ、たくさん遊び場をつくっていただきたいと思う。

**佐藤委員** 私はスターチケットの時（検討委員会）にも委員を務めたが、他の委員の方が、もっと若い方だったが、子どもがいる世帯の方に向けてのSNSが柏崎市に全然ないので、インスタグラムやフェイスブックなど、そういうものをつくってほしいと言っていた。私はそこまでSNSをしてなかったが、やはり検索とかはしていた。長岡とか上越とかでもSNSがあまりない。私は小学生、保育園の子どもがいるが、遊ぶ場所がなくて困っている。小さいイベントやマルシェなどはいろいろなところでやっているが、その情報を、いかにアンテナを張り巡らしても柏崎で遊びに行くというのが難しい。（周りから）昨日、ここに行ったんだよって、そんなのあったんだって、結構知らないで、上越に遊びに行ったんだよねって、残念な思いとかがあった。そういう市だけでなく、民間の会社とかでやっているような小さいイベントとかも、フェイスブックやインスタグラムにとまとめて、柏崎でいっぱいお出かけできたらいいのになって思っている。結構、上越や長岡に行くのに時間が掛かるため、小さい子はトイレなど大変である。若い職員の方たちの中で、ぜひSNSをつくっていただけたらと思う。20代ぐらいの方などは結構言っているのでお願いしたい。

**野中委員** 西山は特に少子化と言われていて、子どもの人数もすごく少なくなっている。令和6年度は、ありがたいことに当園では、0歳1歳の新しい子が10人入った。継続児5人で、15人の0歳1歳がスタートし、保育士が足りないぐらいであり、未満児の途中入園がいまのところできない状況である。子育て支援室が今日で最後だったが、市内の方からも10組ぐらい遊びに来た。市は1・2歳児（保育料）無料化というのと、とても素晴らしいことやっている。当園も独自で1歳前に入園したお子さんには、お母さんたちの力になってあげようと、おむつを2歳まで無料提供している。

若い方にもどんどん情報発信してもらいたい。自分の子が大阪の大学に行っており、親は帰ってきてもらいが、柏崎には帰りませんと言っているの、帰ってきたいまちにしてもらいたい。これから5月に成人式もあるので、魅力的なものを情報発信していただき、若者が集まるまち、市になってもらいたいと思う。

**高橋委員** 小学校の校長会の代表として参加しているが、柏崎市の方では、本当に子どもが生まれてから継続的に子どもたちの学びを支えているというのが分かり、大変勉強になった。

また、先ほど4月より臨床心理士が教育委員会の方に配置されるということ、フリースクール等がスタートとし、市としてもこれからのことを考えていること分かり心強く思った。

**田辺委員**

私は、子ども・子育て会議に参加するまで、市でこんなに手厚くいろいろな事業があるんだということを知らず、もっと積極的に市に相談したりすれば良かった、残念だったなと思っている。障がい児の母としての立場でお話するが、キッズマジックが新しく改修されるとのことで、娘が病気になる前も病気になった後も何度か利用させていただいたが、おむつを交換する場所が障がい者向けにはできていない。小さいお子さんが利用できる台はあるが、少し成長すると台から足がはみ出してしまう。特別支援学校が貸し切りで利用した時は、おむつを替える台がなくて困った時があった。古い施設に行くと、障がい者のマークがついているトイレでも交換する台がないが多い。

子ども・子育て会議と少し違うが、今のお父さん、お母さん、大学卒業されてから結婚される方が多くて、高齢出産が増えている。私は、上の子を産んでたのが30歳で、障がいを負ってしまい、次の子が37歳と少し高齢出産になってしまった。その時に、上の子と、10歳離れて出産されている方が同じ産院にいたが、第1子を生む年が早ければ早いほど、第2子、第3子という希望が持ててくるのかと。私が37歳で生んだ時に、同年代の方が高齢出産だと第1子で諦めてしまう。第2子も疲れて産めない。学校行事に参加するのも大変、家事と子育てを両立するのも大変と。大学を卒業して何年か働き、落ち着いた頃に40歳手前で、産もうと思っても、不妊になって、気がついたらもう閉経したというような例もあるらしい。できれば中学生、高校生の方に、女性は安全に産む年に限りがあるということ、産むのが強制ではないし、産むことが全て正解とは言わないが、障がい児を生むリスクもあることから、安全に産むということを知識として教える場が、既にあるのかもしれないが、あれば良いということを常々思っている。できれば、その子どもが生まれてからの支援もそうだが、子どもを産む前の教育をしていただけたらと思う。

**西巻委員**

振り返れば、5期10年務めさせていただいた。この間、私も子育て世代から外れてしまい、なかなかタイムリーな話ではできなかったが、働きながら子育てをする者の代表として意見を述べてきた。当初から比べるとかなりきめ細かい支援事業が出てきているなということと、ひとつのことではできないことで、複合的なことが増えてきたというところが今まで見てきた中にある。ひとつのことだけではなく複合的なサービスをしていただきたいと思うし、働く者の立場としては、良いサービスを提供するには、やはりそのサービスを提供する方たちの環境、サービスを受ける側だけでなく、サービスを提供する側の方たちの処遇などもしっかりと考えていただければと思う。

**小林委員**

キッズマジックが4月から無料となるのを新聞で知って良かったと感じた。キッズマジックも大きくなる。それにプラスして海と山の柏崎、それこそ昔、若い時は小国のアスレチックに子どもを連れて行ったが、外で元気よく遊べるような施設もあると良いと思った。今、子どもたちは転ぶとすぐに骨折する。体を動かす場面がすごく少ないと思う。以前、キッズマジックは1時間300円ぐらいで（子を）2、3時間預かってくれる施設があった。できればそういったのがあれば、お母さんたちが少し休んで病院に行くとかできるかなという感じがした。普通に預けると700円ぐらいなんで300円ぐらいの時は良かったなど。会議に行くなど私も活用させてもらった。

フリースクールは4月からできるということだが、民間になると多分預けるのにお金が掛かる。大変な人が預けるということはお金の負担もあるので、それに少し負担ができるようなことができればと思う。

**松谷委員**

柏崎に嫁いで25年と少し、4人の子どもを出産したので、それこそ子育て支援に関しては、自分の肌で移り変わりをじわじわと感じてきた一人だと思っている。新しい助成や、

補助があるたびに、なんで1人目からしてくれないんだろうっていう思いは感じていた。今、4人目も成人を迎え、やっと子育てが終わったという感じだが、1人目、2人目から比べたらものすごく子育てしやすい柏崎になったと思う。今の若い方々が羨ましい。25年の中で、個人的に1番変わらなかったと思うのは、1・2歳児の保育料無料化についてのアンケートにもあったが、お父さんの育児参加である。主人には4回とも育休産休は取ってもらえなかった。1人目の時は会社に制度がなく、3人目ぐらいからは会社にも制度があり、国からも男性も育児休暇取ろうとはあったが、現場感覚としてとても忙しく、休みは取れないと。自分を取りたくても、上の年代の上司になると、なんで取っているのかという感じが色濃く残っている。

広報かしわざきで育児取得の補助（の記事）を見た。もっともっとアピールしていってもらい、社会全体の意識をどんどん変えていって欲しい。いろいろな制度も大事だけど、やはり子育ては大変だけど楽しい、嬉しいものだ。父親だけでなく、地域の方もみんなで子育てしていかなければならないという雰囲気を持ってもらいと感じている。子育てはあつという間だと思っている。振り返れば、ああしたかった、こうしたかった、ああしてもらいたかった、こうしてもらいたかったというのはいっぱいある。これから結婚される方にも少しでも子育ての楽しみを味わってもらえたらなと思っている。柏崎ではこんなことをやっているというのを、もっともっとアピールした方が良いのではないかと、せっかく子育てしやすい市になっていると思うため、もっと世の中にアピールしていった方が良いと思った。

#### 川本副委員長

私自身もこの会議に出るまで知らないことがたくさんあった。出るたびに本当に勉強させていただくことが多々あった。その中でも、小規模保育園、認定こども園を運営していく中で、どのように子育て支援をしていくか、市と連携をしていくか、ハブとしての支援をどう担っていくかなど、違った視点で学ばせていただいた。また、これからの子どもたちが大きな社会の変化を生きていく中で、いろいろなことが変わっていくだろう。もう自分たちが子どもの頃になかったものばかりであり、これから10年、20年、今の子どもたちが成人するときどのような社会になっているのかを見据えた時に、やはり子どもが安心していられる場所、居場所作りがこれからも課題になっていくのではないかと感じている。

会議を重ねるたびに、いろいろなことが改善されていることが1つの希望であり、子どもたちの明るい未来のために、子ども・子育て会議が希望の光になっていただくことを願っている。

#### 4 その他（連絡事項等）

- ・報酬について

#### 5 閉会 小池部長

今、私たちだけではできない、市役所だけではなく、もちろん学校や医療もそうだが、民間の力もたくさん必要な時代になってきた。もう1つ、時代の変化がすごく早いという風を感じている。令和2年に策定した子ども・子育て支援事業計画だが、1・2歳児の保育料の無料化や産後ケア事業、出産・子育て応援交付金事業など新たな事業として加わっている。来年度は子ども家庭センターが設置となるが、そもそも、国に先駆けて平成30年に子育て支援課の中に、いわゆる母子保健部門と児童福祉部分を一体的に行ってきた。いわゆる一人一人に寄り添った形で事業を進めている。

また、新年度は子どもの屋内遊び場の整備を行う。アンケートなどでも意見をいただいていたが、今頃と遅いのかもしれないが、なんとか1年で形にしたい。期待いただければと思う。1・2歳児保育料の無料化、

3歳児から5歳児に関しては国の無償化があって動いている。一方、事情があって保育園等に預けられない方もおり、新年度は家庭養育応援券、かしわ★ざ★キッズ スターチケット@（アット）ホームとして月5千円の応援券（事業）を実施する。公立（保育園）からスタートするが保育業務支援システムの構築を行う。例えばお便り帳の機能、出欠報告といったシステムの導入である。結婚新生活支援事業、養育費確保支援事業補助金など、新規事業で進めていく。

事業を進めている一方、昨年柏崎市の出生数は320人で、中学校単位で考えると2、3校分という現実もある。少子高齢化、人口減少が全国的な自治体の課題であり、沖縄だけは合計特殊出生率が高い。子育て支援が沖縄だけ際立っていることではない。子どもをもうけるのが当たり前といった社会が変化してきている。これを元に戻すことは非常に大変である。今一生懸命やっていることを長く続けることが非常に大事だと認識している。

県のこども計画が策定されていくかと思うが、そちらの内容等を把握しながら、新たな計画策定を実施していく。今まで同様に、福祉、保健、教育、そればかりではなく、男性育休、市役所では大体80%が男性育休を取っており、先頭を切っていかなければならないと思っている。委員の皆さんからもそれぞれの部署に戻った際に会議での話を広げていただきながら、柏崎が持続していくためのお手伝いをお願いしたい。最後になるが、来年度は新体制で進めていく。会長はじめ委員の皆さんにはお世話になった感謝申し上げる。

・会議終了